

資料・統計

2004年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2004

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科					
<hr/>				全摘	60
乳癌				残胃全摘	9
外来手術	37			噴門側切除	9
乳腺	36			幽門側切除	154
その他	1			PPG, 分節切除	26
<hr/>				臍頭十二指腸切除術	2
乳腺				EMR	0
良性	14			SLR	5
良性腫瘍	13			部分切除	9
乳輪下膿瘍	1	非切除	3	腹腔鏡下幽門側切除	0
乳癌	346			単開腹	2
Auchincloss	60			バイパス	1
単純乳房切除術	41			その他	0
乳房温存手術	216	再発	13	肝転移切除	1
Probe lumpectomy	3			リンパ節郭清	2
部分切除	26			局所切除	4
その他	15			卵摘	1
<hr/>				人工肛門	6
甲状腺・副甲状腺	3			腸切除	2
甲状腺癌再発	0			バイパス	2 <small>重複あり</small>
甲状腺全摘術	0			腸切除	1
甲状腺半切除術	2	イレウス	3	バイパス	0
原発性副甲状腺機能亢進症	1			癒着剥離	2
<hr/>				人工肛門造設	0
食道	42			胃瘻・空腸瘻	0
良性腫瘍	0			癒着剥離	2
非上皮性腫瘍	1			人工肛門造設	0
食道癌	41	非上皮性腫瘍	12	胃瘻・空腸瘻	0
右開胸	36			GIST	9
左開胸	3			悪性リンパ腫	3
開腹	2			その他	0
遊離空腸移植	0	潰瘍	3		
食道抜去	0	その他	0		
<hr/>					
胃	322	原発	186		
胃癌	291	結腸悪性	123		
非手術	14			右半結腸切除	41
Staging laparoscopy	7			S 状結腸切除	43
切除	274			左半結腸切除	8

	右結腸切除	5	肝腫瘍	切除	非切除
	横行結腸切除	5	肝細胞癌	24	
	下行結腸切除術	3			8 (動注・TAE・RFA)
	回盲部切除術	3	肝内胆管癌	3	
	亜全摘	1	転移性肝癌	21	1
	非切除	0	肝良性腫瘍	6	
結腸良性	3		胆道癌		
直腸悪性	63		十二指腸乳頭部癌	4	
	低位前方切除	17	胆嚢癌	11	3
	前方切除術	14	胆管癌	12	
	超低位前方切除	12	膵臓疾患		
	直腸切断術	8	膵臓癌	33	6
	経肛門的切除	5	その他腫瘍		
	ハルトマン手術	4	十二指腸癌	3	
	骨盤内臓全摘術	1	膵腫瘍	2	
	非切除	1	脾	1	
	その他	1	後腹膜腫瘍	1	
直腸良性	0		小腸腫瘍	1	
再発	28		十二指腸粘膜下腫瘍	1	
	肝切除	10	その他		
	卵巣摘出術	4	膵胆管合流異常	1	
	低位前方切除術	3	慢性膵炎	1	
	横行結腸切除	1	胆石症	13	
	リンパ節郭清	2	イレウス	4	
	直腸切断術	1	その他	14	
	骨盤内臓全摘術	0	計	156	
	人工肛門	3			
	バイパス	2			
	その他	2			
肝転移	14 (上記原発再発症例に含まれる)				
	異時	10 <small>(上記再発症例に含まれる)</small>			
	同時	4 <small>(上記再発症例に含まれる)</small>			
その他の手術	33 (内緊急手術 7)				
	他科癌・他癌	12			
	結腸部分切除術	3			
	超低位前方切除術	2			
	低位前方切除術	2			
	前方切除術	2			
	人工肛門造設術	2			
	バイパス手術	1			
	人工肛門閉鎖術	9			
	腹膜炎手術	3			
	人工肛門造設術	2			
	瘻孔切除再縫合術	2			
	腹壁癒痕ヘルニア	2			
	結腸切除術	2			
	腸閉塞手術	0			
	ベーチェット病	1			
	その他	1			

2004年の外科手術件数は入院1177件、外来37件で2003年と比べ入院が125件増加し過去最高手術数を記録した。外来は10件減少した。各臓器別手術件数は乳腺360件、食道42件、胃322件、肝胆膵156件、直腸・結腸247件、その他50件であった。乳癌は346件で70%が乳房温存手術であり、2003年から乳房温存術式が多くなっている。食道癌は42件と昨年と比較すると倍増した。胃癌手術は291件で4件減少した。胃全摘の割合は約四分の一で前年並みであった。結腸・直腸手術は17件増加したが原発性の結腸・直腸癌手術と再発手術も増加したことによる。肝胆膵は25件の増加であった。肝癌の手術が減少し、胆道癌手術が増加した。クリニカルパスの運用と縮小手術の増加により術後入院日数が短縮したためここ数年手術件数は増加しているが、現在のベッド数・スタッフ数ではこれ以上の増加は望めないと思われる。

(文責 土屋義昭)

2. 呼吸器外科

1	気管（支）疾患	3
	気管切開	2
	気管ステント除去	1
2	肺疾患	267
2-1	良性肺疾患	10
	炎症性肺疾患	6(2)
	良性肺腫瘍	4(2)
2-2	悪性腫瘍	257
2-2-1	原発性肺癌	231
	全摘除	3
	肺葉切除	140(5)
	区域切除	51(1)
	部分切除	32(3)
	再発肺癌	1
	気管支切除	1
	試験開胸	1
	審査開胸	2
2-2-2	転移性肺腫瘍	26
	結腸直腸癌肺転移	17(7)
	骨軟骨部腫瘍肺転移	2(1)
	腎癌肺転移	2(2)
	婦人科疾患肺転移	1(1)
	頸部腫瘍肺転移	3
	他	1
3	縦隔疾患	22
3-1	縦隔腫瘍	16
	胸腺腫	5(1)
	奇形腫	2
	胚細胞性腫瘍	1
	胸腺癌	1
	胸腺カルシノイド	1
	神経性腫瘍	1
	他	5
3-2	縦隔鏡検査	6
4	胸膜疾患	11
	気胸	7(4)
	乳び胸	1
	巨大ブラ	1
	胸膜生検	2(2)
5	胸壁疾患	1

() : 胸腔鏡手術

2004年の手術数は304件で、昨年、一昨年より増加

している。再発肺癌と審査開胸を除いた原発性肺癌手術例は228例と過去最多の記録した。最近の傾向として、stage I が多数を占め、進行例は少なく、肺全摘は3例、sleeve lobectomyは2例のみであった。従来通り、2 cm以下の肺癌には積極的に区域切除などの縮小手術を行っている。胸腔鏡併用手術も徐々に増加しており、適応のある症例には胸腔鏡補助下の肺葉切除も行っている。また、縦隔リンパ節転移の診断に、縦隔鏡検査も積極的に行い、正確な病期診断に努めている。転移性肺腫瘍と縦隔腫瘍は、この数年ほぼ同様の手術数である。(文責 大和 靖)

3. 整形外科

腫瘍性疾患総計	198
良性軟部腫瘍	
切除術	104
切除術+皮弁	2
良性骨腫瘍	
生検のみ	3
切除術	14
切除または搔爬+骨移植	12
小計	135
悪性軟部腫瘍	
広範切除	12
広範切除+筋皮弁等の再建術	4
生検術	9
小計	25
悪性骨腫瘍	
広範切除	1
広範切除+人工関節など再建術	2
生検術	4
小計	7
脊髄腫瘍	4
転移性腫瘍	
脊椎	
椎弓切除+後方固定	7
腫瘍切除+前方固定	1
腫瘍切除+前後固定	1
除圧 腫瘍切除	2
脊椎生検	6
転移性骨盤腫瘍	1
四肢転移性腫瘍	7
胸壁転移性腫瘍	2
小計	27

脊椎疾患 非腫瘍性疾患	
ラブ法	15
椎弓切除	4
後方除圧+固定	2
開窓術	1
頰椎後方拡大術	5
ハローベスト固定	1
小計	28
股関節疾患	
人工関節置換術	15
人工関節再置換術	4
人工骨頭置換術	7
滑膜切除	2
脱臼整復	3
小計	31
膝関節疾患	
人工関節置換術	23
人工関節再置換術	2
靭帯再建術	1
半月板切除	6
滑膜切除	8
非観血摘受動術	1
関節鏡検査	4
骨長調整術	1
小計	46
肩関節疾患	
腱板縫合	3
小計	3
肘手関節疾患	
腱鞘切開	25
手根管開放	7
滑膜切除	11
腱移行・腱移植	2
関節固定・形成術	3
観血摘脱臼整復術	1
神経剥離	3
小計	52
足・足関節疾患	
外反母趾矯正骨切り	2
陥入爪	1

関節形成術	1
滑膜切除	1
関節固定	1
小計	6
その他	
骨接合術	7
抜釘	22
デブリードマン	6
感染・壊疽による切断	1
小計	36

2004年 合計 400

合計に対する腫瘍性疾患の比率は50.5%であった。そのうち良性腫瘍68.2%，悪性腫瘍16.2%，転移性腫瘍13.6%，脊髄腫瘍2.0%であった。腫瘍性疾患数は昨年より増加した。

人工関節手術は昨年並みであった。（畠野宏史）

4. 脳神経外科

1. 脳腫瘍	
脳腫瘍摘出術	30
シャント	1
その他	1
2. 脳血管障害	
シャント	1
その他	1
3. 頭部外傷	
血腫除去術	13
4. その他	1
計	48

全体に手術件数が減少したが特に理由は見あたらず、一時的なものと考えられる。（文責 吉田誠一）

5. 産婦人科手術統計

複式子宮全摘術（+付属器摘出術など）	96
子宮筋腫	55
子宮腺筋症	6
良性卵巣腫瘍	9
子宮頸部異形成	3
子宮頸癌 0期	12
子宮頸癌 I a期	5
子宮内膜異型増殖症	1
子宮体癌	4

子宮留膿腫	1
膣式子宮全摘出術 (のぞく子宮脱手術)	1
複式子宮全摘出術 (+付属器摘出術) +骨盤内リンパ節郭清 (+傍大動脈リンパ節郭清)	46
子宮体癌 (肉腫含む)	44
I a	1
I b	24
I c	7
III a	6
III b	1
III c	4
IV b	1
子宮頸癌	2
準広汎子宮全摘出術	22
子宮頸癌	21
子宮体癌	1
広汎子宮全摘出術	36
子宮頸癌	1
I a 1	1
I a 2	1
I b 1	18
I b 2	5
II a	1
II b	6
III b	1
子宮体癌	3
II b	3
卵巣悪性腫瘍手術 (卵管癌, 境界悪性腫瘍を含む)	44
I a	13
I c	7
II a	1
II b	1
II c	1
III b	1
III c	13
IV	7
骨盤内除臓術	2
SLO(second look operation)	2
子宮頸部円錐切除術	79
子宮頸部異形成	20
子宮頸癌 0 期	40
子宮頸癌 I a 1 期	18
0 期円錐切除後遺残	1

LEEP	35
子宮頸部異形成	18
子宮頸癌 0 期	17
その他の悪性腫瘍手術	
試験開腹	6
膣癌	2
外陰パジェット病	3
膣壁腫瘍切除術	2
再発腫瘍摘出術	12
直腸癌ハルトマン手術	1
子宮体癌胸壁膿瘍排膿	1
膀胱腫瘍切除	1
子宮腫瘍生検	1
子宮頸癌留膿腫ドレナージ	1
子宮体癌術後出血止血	1
付属器切除術 (付属器腫瘍摘出術を含む)	47
子宮筋腫核出術	37
腹腔鏡下手術	66
良性卵巣腫瘍	58
乳癌術後	2
卵管水腫	2
悪性・境界悪性腫瘍	3
子宮外妊娠	1
経頸管的切除 (TCR)	18
子宮筋腫	7
子宮内膜ポリープ	11
帝王切開術	14
予定帝切 前回帝切	3
骨盤位	1
緊急帝切 胎児仮死	7
分娩進行停止	3
頸管縫縮術	1
子宮内容除去術	20
稽留流産	6
不全流産	3
胞状奇胎	3(4)
子宮体癌・内膜増殖症	5
子宮内異物 (避妊リング)	1
人工妊娠中絶	1
子宮脱手術	12

膣式子宮全摘+膣壁形成術	6
前後膣壁形成術	2
中央膣閉鎖術	3
Richardson Williams手術	1
<hr/>	
その他良性疾患手術	
腹壁癒痕ヘルニア修復術	2
肥厚性癒痕切除術	1
子宮外妊娠手術（開腹）	1
膣狭小症膣入口部切開	1
<hr/>	
計	614

2004年の産婦人科手術は614件であり前年457件に対し157件の大幅増であった。子宮頸癌は円錐切除、LEEPから広汎子宮全摘出術まで全手術が増加。子宮体癌、卵巣癌も増加していた。一方、良性疾患に対しても子宮筋腫、筋腫核出、腹腔鏡、子宮鏡（TCR）いずれも増加、特に腹腔鏡、TCRは前年比3倍増となっている。それを受けて開腹の付属器手術は減少した。2004年の総分娩数は85件で、帝王切開率は16.5%であった。

（文責：富田雅俊）

6. 泌尿器科

悪性腫瘍に対する手術

後腹膜・副腎	
後腹膜リンパ節郭清	1
腎細胞癌	
根治的腎摘除	54
部分切除・核出術	16
皮膚メタ切除	1
後腹膜リンパ節郭清	1
試験開腹	1
腎盂尿管癌	
腎尿管全摘除	21
尿管部分切除、膀胱尿管新吻合	2
腎尿管膀胱全摘、回腸導管	2
膀胱癌	
根治摘膀胱全摘除、回腸導管	16
膀胱部分切除	2
TUR-Bt（生検を含む）	209
尿管結紮	1
前立腺癌	
根治的前立腺摘除	22
針生検（疑いを含む）	370
TUR-Pca	2
去勢術	22
精巣腫瘍	

高位精巣摘除	13
陰茎癌	
陰茎部分切除	5
その他	
骨盤臓器全摘、回腸導管（他科手術と併施）	1
鼠径腫瘍切除	1
<hr/>	
小計	763

良性腫瘍に対する手術

副腎腫瘍	
副腎摘除（開腹）	3
前立腺TUR-P	24
精巣上体腫瘍切除	1
<hr/>	
小計	28

腫瘍以外の手術

腎臓	
腎摘除	1
経皮的腎瘻造設（良悪含む）	20
腎生検	2
乳び尿根治術	1
乳び尿硝酸銀注入	2
馬蹄腎峡部離断	1
尿管	
尿管カテーテル（良悪含む）（カテ）	47
尿管鏡	2
尿管尿管吻合（他科手術と併施）	1
尿管瘤TUR	1
膀胱	
膀胱尿管新吻合（尿管瘻）	1
経尿道的膀胱碎石術	2
膀胱瘻造設	4
膀胱内血腫除去	13
Koch結石碎石	1
尿道	
内尿道切開	9
尿道結石碎石	2
カルンケル手術	2
女性コンジローマ切除	1
陰囊・鼠径	
陰囊水腫手術	1
精巣上体摘出	0
陰茎	
その他	
創再縫合、ドレナージ	1
Kochストーマヘルニア	1
鼠径ヘルニア	1

小計	117
合計	908

2004年の泌尿器科手術、延べ882名、908件の集計を行った。同一症例で複数回、複数箇所の手術をしている場合があり、これらは1件として表記した。悪性腫瘍手術の項には生検を含み、その他の手術にも多くの癌患者を含むため、悪性腫瘍患者の実数を表してはいない。前立腺癌患者数は増加しているが、根治的前立腺摘除手術は昨年より減少した。放射線治療を選択する患者さんが増加していることに起因する。腎細胞癌手術件数の増加が著しい年であった。
(小松原秀一)

7. 皮膚科

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	35
基底細胞癌	43
有棘細胞癌	27
ボーエン病	19
日光角化症	12
外陰パジェット病	7
皮膚付属器癌	3
悪性軟部腫瘍	2
悪性リンパ腫	2
転移性皮膚癌	5
小計	155

良性腫瘍・その他

母斑細胞母斑	114
表皮嚢腫(粉瘤)	102
脂漏性角化症	40
脂肪腫	19
皮膚線維腫・軟線維腫	22
脂腺母斑・青色母斑	12
良性皮膚付属器腫瘍	15
血管腫	9
ケラトアカントーマ	6
石灰化上皮腫	30
化膿性肉芽腫	12
慢性膿皮症	1
毛巣洞	5
神経線維腫	3
その他	84
小計	474

2004年全体の手術件数は629件であり、昨年の569件から10%増となった。特に悪性腫瘍の手術件数が155件と前年より20%増加した。センチネルリンパ節生検は悪性黒色腫14例と有棘細胞癌6例において施行し、そのうち4例(20%)に術中迅速病理検査で微小転移が検出され、根治的リンパ節郭清を行った。転移陰性例に対する不要な手術侵襲を回避する上で、センチネルリンパ節生検は有力な検査手技となっている。
(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

白内障	超音波水晶体乳化吸引術+人工レンズ挿入術	110
	水晶体嚢外摘出術+人工レンズ挿入術	20
緑内障	線維柱帯切除術	6
眼瞼腫瘍	摘出術	5
結膜腫瘍	摘出術	3
霰粒腫	摘出術	9
労人性内反症	眼輪筋短縮術	1
翼状片	切除術+結膜移植術	2
前房洗浄		1
涙点閉鎖術		1
	計	155

昨年と比較しても特に大きな変化はみられなかった。
(文責 難波 克彦)

9. 耳鼻咽喉科

悪性腫瘍に対する手術

1. 舌・口腔	10
部分切除	5
切除+再建	5
2. 鼻副鼻腔	2
上顎部切	2
3. 中・下咽頭	6
切除	3
切除+再建	3
4. 喉頭	18
レーザー手術	6
全摘	12
5. 甲状腺	69
葉切除	53
亜全摘	3
全摘	13
6. 頸部	11
転移性リンパ節切除	1

頸部郭清	10
7. 唾液腺	2
顎下腺腫瘍切除	1
耳下腺腫瘍切除	1
8. 耳	1
耳介腫瘍切除	1
<hr/>	
小計	119

良性腫瘍に対する手術

1. 口腔・口唇腫瘍切除	6
2. 咽頭腫瘍切除	1
3. 鼻副鼻腔	5
副鼻腔炎手術	1
鼻副鼻腔腫瘍切除	4
4. 喉頭	4
声帯ポリープ・結節切除	1
肉芽腫・嚢胞切除	3
5. 甲状腺	8
葉切除	8
6. 唾液腺	11
顎下腺摘出	6
耳下腺部分切除	5
7. 副甲状腺腫瘍摘出	3
8. その他	4
<hr/>	
小計	42

その他

1. 生検	65
咽頭	7
喉頭	35
甲状腺	1
頸部リンパ節	21
唾液腺	1
2. 気管切開	5
3. 食道ブジー	2
<hr/>	
小計	72

例年に比べ悪性腫瘍手術が若干多かった。その中で甲状腺手術は過去最高数であり、又再建を要する切除術は昨年と同様であった。(文責 長谷川 聡)